

## ■ 掲示板

### ■ ドイツ・イノベーション・アワード ゴットフリード・ワグネル賞2015募集

主催：ドイツ科学・イノベーションフォーラム東京，在日ドイツ商工会議所

ゴットフリード・ワグネル賞について：1868年来日し，日本の科学界と教育界に大きな足跡を残したドイツ人科学者，ゴットフリード・ワグネルにちなんで名付けられたこの賞は，優れた日本の若手研究者の支援と日独間の産学連携を促進することを目的として，技術革新を重視するドイツ企業により創設されました。本賞は，日本の優れた若手研究者による豊かな未来を創造する革新的な研究成果に与えられます。

応募資格：日本の大学・研究機関に所属する45歳以下の若手研究者（応募締切日時）

応募対象：モビリティ，マテリアル，ライフサイエンス，エネルギーとインダストリーのいずれかの分野における応用志向型の研究で，現在進行中の研究，または過去2年以内に完了した研究成果

モビリティ

- ・自動運転車，自律走行車
- ・クリーン自動車（代替駆動システム，ハイブリッドカー，電気自動車，二酸化炭素排出量の削減，自動車軽量化など）
- ・コネクテッドカー，高度道路交通システム，インフラストラクチャー
- ・公共交通
- ・ヒューマン・マシン・インターフェース

マテリアル

- ・バイオ材料
- ・機能性材料（エレクトロニクス，光，半導体，バッテリー，触媒用などへの応用）
- ・構造材料（高強度・軽量）
- ・革新的化学および材料プロセス

ライフサイエンス

- ・医薬品
- ・オーダーメイド医療
- ・医療技術
- ・医療機器，診断技術
- ・作物防除，植物バイオテクノロジー
- エネルギーとインダストリー
- ・再生可能エネルギーとエネルギー貯蔵
- ・スマートグリッド技術
- ・次世代ものづくり技術
- ・自動制御とロボティクス
- ・「モノのインターネット」

賞金：250万円。原則として受賞は各分野1件，計4件とする。

副賞：希望するドイツの大学・研究機関に最長2カ月間研究滞在するための助成金。

審査方法：本賞の共催企業の技術専門家による予備審査の後，常任委員と専門委員から構成される選考委員会において，受賞者を決定します。

応募方法：電子申請システムで受け付けます。詳細については，ドイツ・イノベーション・アワードのホームページをご覧ください。

[www.german-innovation-award.jp](http://www.german-innovation-award.jp)

募集期間：2014年11月4日(火)～2015年1月12日(月)必着

提出書類の使用言語：英語

問合せ：

〒102-0075

東京都千代田区三番町2-4 三番町KSビル5F

ドイツ科学・イノベーションフォーラム東京

ドイツ・イノベーション・アワード事務局

Tel：03-5276-8827

[info@german-innovation-award.jp](mailto:info@german-innovation-award.jp)

## ■ 会告

### ■ 日本放射光学会第103回評議員会議事録

日時：2014年7月12日(土) 14:00～16:00

場所：関西学院大学 東京丸の内キャンパス 大会議室

出席者：雨宮慶幸，石川哲也，太田俊明，大橋治彦，岡島敏浩，尾嶋正治，加藤政博，鎌田雅夫，木村昭夫（編集幹事），木村真一，組頭広志，小杉信博，佐々木聡，辛 埴，大門 寛，高田昌樹，田中 均，原田慈久，藤森 淳，水木純一郎，村上洋一（会長），山田和芳，山本雅貴，足立伸一（庶務幹事），木下豊彦（会計幹事），篠原佑也（行事幹事），濱 広幸（渉外幹事）

欠席者：足立純一，繁政英治，竹田美和，中井 泉，中尾裕則，松田 巖，矢橋牧名

事務局：佐藤亜己奈（WORDS），西野三和子（WORDS）

### 〈審議事項〉

#### 1. 名誉会員の推薦について

藤森評議員より石井武比古先生の名誉会員推薦書が提出された。審議の結果，次回総会にて石井先生を名誉会員に推戴することとした。

本件に関連して，名誉会員が故人となられた場合の名簿への

記載について検討した。審議の結果、今後は故人となられた場合にも、名簿に名前を記載することとした。また、名誉会員候補者の方が手続きの段階で故人となられた場合の対応について今後幹事会で検討をすることとした。

## 2. 学会アーカイブについて

足立庶務幹事より本学会に関連する過去の貴重な資料を電子化してホームページで公開することについて提案があった。審議の結果、ホームページ上での公開は原則資料タイトルのみとし、資料請求があった場合に担当幹事が可否を判断することとした。

## 3. フォトンファクトリーにおける放射光実験ビームタイムの確保に関する要望書への対応について

フォトンファクトリー・ユーザーズアソシエーション (PF-UA) から「フォトンファクトリーにおける放射光実験ビームタイムの確保に関する要望書」への賛同依頼があった。対応について検討した結果、要望書の主体が明確でない等の意見があり、現状の要望書への賛同は見送り、要望書の再考を依頼することとした。

## 4. 会員異動

足立庶務幹事より、第102回評議員会以降の入退会申請者に関して、入会：正会員10名（うち学生会員4名）、シニア会員2名、賛助会員1社1口の報告があり、これを承認した。退会に関して、退会：正会員15名（うち学生会員5名）を確認した。2014年7月12日現在での総会員数は1,308名（うち学生会員127名）、名誉会員5名、シニア会員26名、賛助会員43社（45口）、特別賛助会員10団体（11口）。

## 5. 協賛・後援

足立庶務幹事より本学会に対する協賛、後援依頼について報告があり、協賛19件、後援1件を承認した。

## 〈報告事項〉

### 1. 次期評議員選挙結果

足立庶務幹事より、次期評議員選挙の結果について報告があった。次期改選評議員（15名）は下記の通り。

次期評議員：足立伸一、雨宮健太、有馬孝尚、稲田康宏、  
籠島 靖、河田 洋、木下豊彦、木村洋昭、  
近藤 寛、谷口雅樹、野村昌治、濱 広幸、  
百生 敦、横山利彦、渡辺義夫

### 2. 高輝度中型放射光源特別委員会報告

水木評議員より6月7日に開催された第1回高輝度中型放射光源特別委員会について報告があった。第1回委員会にて学術会議に「高輝度中型放射光源」に関する公開シンポジウム開催を申請することとなった旨の説明があり、シンポジウムの趣意書を確認した。

また、文科省量研室が担当する「次世代放射光施設計画検討WG」より、(1)放射光科学全体の取り組むべき課題、(2)(1)に対する次世代放射光施設が果たせる貢献、(3)(2)を産業界も巻き込む形で効率的に行うための次世代放射光施設のあるべき運営の姿について報告を求められており、この課題に対する回答を第2回委員会で議論するとの報告があった。

### 3. 常設サイエンスボードの設置について

足立庶務幹事より前回の評議員会で継続審議となっていた常設サイエンスボードの設置に関して、幹事会で検討を進めて

いる旨の報告があった。他学会や産業界の意見を取り入れる仕組みについて、常設サイエンスボード以外の形態も含めて引き続き幹事会で議論し、改めて提案するとの説明があった。

## 4. 他学会との連携強化について

足立庶務幹事より前回の評議員会で継続審議となっていた他学会との連携強化に関して、まずは関連学会に講習会の共催を働きかける等の活動から始めることを検討している旨の報告があった。

## 5. 先端光源に関する研究会について

前回の評議員会で提案された先端光源に関する研究会について、分子研研究会として申込を行い、準備を進めているとの報告があった。開催日程は2014年11月21日、22日を予定、開催場所は岡崎コンファレンスセンター。

## 6. 特別賛助会員の勧誘と口数増加策について

足立庶務幹事より、特別賛助会員の位置づけとメリットを明確化するため、JSR2015から年会・合同シンポジウムの共催団体を「特別賛助会員である団体」と「特別賛助会員でない団体」に分け、特別賛助会員である共催団体の会員に参加費の優遇制度を設けることとなったとの説明があった。

近日中に各共催団体に特別賛助会員になっていただくよう働きかけるとともに、既に会員となっている団体にも口数の増加を働きかけることとした。

## 7. 2015年世界光年について

足立庶務幹事より2015年世界光年国内窓口である日本学術会議 International Commission for Optics 分科会にその後の進展について確認をしたところ、世界光年への活動関与の意思がある場合には8月1日までに回答して欲しい旨の要請があったとの報告があった。審議の結果、本学会も世界光年に参画することとし、今後学会としての取り組みを検討していくこととした。

## 8. 第19回学会奨励賞応募状況

足立庶務幹事より第19回学会奨励賞の応募状況について報告があった。

## 9. 第2回功労報賞公募について

足立庶務幹事より第2回功労報賞募集要綱が示され、これを確認した。

## 10. JSR2015準備状況

篠原行事幹事より2015年1月10日(土)~12日(月)に立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催されるJSR2015の準備状況について報告があった。今回から共催団体を「特別賛助会員である団体」と「特別賛助会員でない団体」に分け、特別賛助会員である共催団体の会員に参加費の優遇制度を設けることとなったとの説明があった。

また、JSR2016について東京大学柏キャンパスで開催予定との報告があった。

## 11. 第6回・第7回若手研究会準備状況

篠原行事幹事より、若手研究会公募の審査結果と研究会準備状況について報告があった。若手研究会の公募を行ったところ3件の応募があり4月14日に審査委員会を行った。うち2件に関して甲乙付けがたく、今回は1件を選ぶことは困難であると判断し、第6回「コヒーレントX線が拓く構造可視化の新しい世界」、第7回「最先端オペランド観測で明らかになる物性科学」の2件を採択したとの報告があった。第6

回若手研究会は2014年8月22日(金)-23日(土)に Spring-8 キャンパス SACLA 実験棟 2階大会議室で、第7回若手研究会は2014年9月29日(月)-30日(火)に東京大学柏キャンパスで開催される。

#### 12. 第6回放射光基礎講習会準備状況

篠原行事幹事より、2014年8月1日(金)-2日(土)に東京大学工学部6号館63講義室で開催される第6回放射光基礎講習会「初心者のための放射光入門講座」の準備状況について報告があった。

#### 13. 会誌編集状況

木村編集幹事より会誌編集状況について、27巻6号に「結晶と放射光」(仮題)として世界結晶年関連の特集記事を掲載予定であること等の報告があった。

#### 14. AOFSSRR2014について

足立庶務幹事より、AOFSSRR2014が2014年9月15日-17日に台湾で開催される旨の報告があった。

#### 15. ケイロンスクールの学会推薦について

ケイロンスクール事務局から放射光学会推薦枠として最大8人の推薦依頼があった。JSR12-14の学生発表賞受賞者および学会員全体に募集をかけたところ、学生会員1名から応募があり、旅費・宿泊費のサポートが受けられる特別推薦者として推薦をしたとの報告があった。

#### 16. その他

村上市長より、放射光学会が提案したマスタープランについて、日本学術会議のヒアリングで使用した資料と、文科省振興局学術機関課のヒアリングで使用した資料の間で、蓄積リングのエミッタンスに関する数値に相違があったことについて説明があり、関係者に誤解を与えたことについて謝罪があった。この件について、会長の責任を問う意見が評議員から述べられた。加藤議長が一旦引き取り、これまでの経緯をまとめて評議員会に報告することとした。また今後の対応策について、会長から評議員に提案することとした。

#### 評議員会日程(予定)の確認

第104回評議員会 2014年10月

場所: 関西学院大学東京丸の内キャンパス(予定)

第105回評議員会 2015年1月10日(土)

場所: 立命館大学びわこ・くさつキャンパス

#### ■日本放射光学会第104回評議員会議事録

日時: 2014年10月11日(土) 14:00~16:00

場所: 東京大学工学部工学部6号館2階 62号講義室

出席者: 雨宮健太, 足立純一, 足立伸一(庶務幹事), 有馬孝尚, 稲田康宏, 加藤政博, 河田 洋, 木下豊彦(会計幹事), 木村洋昭, 近藤 寛, 組頭広志, 大門 寛, 中尾裕則, 野村昌治, 藤森 淳, 松田 巖, 百生 敦, 矢橋牧名, 山田和芳, 横山利彦, 渡辺義夫  
篠原佑也(行事幹事), 村上洋一(会長)

欠席者: 大橋治彦, 籠島 靖, 佐々木聡, 高田昌樹, 竹田美和, 谷口雅樹, 中井 泉, 濱 広幸(渉外幹事), 原田慈久, 木村昭夫(編集幹事)

事務局: 佐藤亜己奈(WORDS), 西野三和子(WORDS)

0-1. 出席委員の自己紹介を行った。

0-2. 評議員の互選により、加藤評議員を本会議の議長に選出した。

0-3. 佐藤衛 PF-UA 会長のオブザーバー参加を承認した。

0-4. 2014年10月1日より2015年度事業がスタートしたことを受け、村上市長より以下の活動方針について説明があった。

- 1) 放射光広報活動, 学会会員の増加(特に学生会員数),
- 2) 若手研究者の育成, 3) アジア・オセアニアの放射光科学のリーダーシップ, 4) 財政基盤の確立

#### 〈審議事項〉

##### 1. 2015年度学会組織および事業計画

足立庶務幹事より、2015年度の学会組織(会長, 幹事, 評議員, 各委員会委員)および事業計画について説明があり、これを承認した。

##### 2. 2015年度渉外幹事活動方針

AOFSSRRでのリーダーシップの確保, IUCrのCommission on Synchrotron Radiationとの協調, 国内他学会との連携, 学会ホームページのアップデート, 英語版ホームページの充実など, 2015年度渉外幹事活動方針について説明があり、これを承認した。

##### 3. 2015年度行事幹事活動方針

篠原行事幹事より、年会・合同シンポジウムの開催, 若手研究会・基礎講習会の継続など, 2015年度行事活動方針について説明があり、これを承認した。

##### 4. 2015年度編集幹事活動方針

試料環境シリーズの連載開始など, 2015年度編集活動方針について説明があり、これを承認した。

##### 5. 2014年度暫定決算

木下会計幹事より、2014年度暫定決算および資産負債明細について説明があり、これを承認した。第6回, 7回若手研究会開催費と税理士顧問料の一部については2014年度内に清算が間に合わなかったため, 次年度予算に繰り越されることを確認した。

##### 6. 学会事務局の業務委託について

足立庶務幹事より、現在学会事務局の業務委託をしている(株)ワーズが5年後を目処に業務終了する予定であるとの報告があり、今後、委託業務の引継ぎについて検討を進めていくとの説明があった。

##### 7. 2015年度暫定予算

木下会計幹事より、2015年度暫定予算について、若手研究会開催費と税理士顧問料の2014年度未清算分を計上したこと, ワーズ事務委託費を増税分増額したことなど説明があり、これを承認した。一部数字が異なると思われる部分について修正し, 次回評議員会で最終版を確認することとした。

##### 8. 第19回学会奨励賞選考結果

村上市長より、学術賞等選考委員会で選考した結果, 下記の1名を第19回学会奨励賞の受賞者として推薦する旨の報告があり、これを承認した。

また、募集要項および選考基準を今後再検討していきたいとの報告があった。

小林正起会員(高エネルギー加速器研究機構)

「超高分解能軟X線発光分光を用いた磁性半導体の電子構造解析」

## 9. 第2回功労報賞選考

村上会長より、第2回功労報賞の受賞者として三國晃氏を推薦する旨の報告があり、これを承認した。

## 10. フォトンファクトリーにおける放射光実験ビームタイムの確保に関する要望書への対応について

足立庶務幹事より、前回評議員会において賛同を見送り、要望書の再考を依頼することとしていた「フォトンファクトリーにおける放射光実験ビームタイムの確保に関する要望書」について、PF-UAに「要望書主体の明確化」「宛先を文科大臣ではなくKEK機構長宛とすること」を求め再考を依頼し、その後PF-UAより届いた修正案に関して評議員会でメール審議を行ったが、要望書の宛先変更について満足できる回答を得られなかった等の理由から、再度宛先変更を求め賛同を保留としたとの報告があった。これを受けて佐藤衛PF-UA会長からPF-UA内での検討結果と宛先をKEK機構長に変更した要望書案について説明があり、審議の結果、要望書案への賛同を承認した。ただし、主体の記載方法と賛同団体の併記について再考を依頼することとした。尚、今後このような依頼があった際の学会の対応について、継続して審議していくこととした。

## 11. 会員異動

足立庶務幹事より、第103回評議員会以降の入会申請者に関して、入会：正会員53名（内学生36名）、シニア会員1名、特別賛助会員1団体1口の報告があった。正会員入会者の内1名は所属不明のため入会を保留とし、それ以外の会員の入会を承認した。

退会に関して、退会：正会員19名（内学生2名）、賛助会員1社1口を確認した。2014年10月11日現在での会員数は1,341名（内学生会員110名）、名誉会員5名、シニア会員27名、賛助会員42社（44口）、特別賛助会員11団体（18口）。また、会費3年間未納のための自動退会者31名を確認した。自動退会者については継続をお願いできそうな会員に一度評議員から働きかけて、次回もう一度審議することとした。

## 12. 協賛、後援

足立庶務幹事より、本学会に対する協賛依頼について報告があり、協賛11件を承認した。

## 〈報告事項〉

### 1. 2014年度事業報告

足立庶務幹事より、2014年度事業について報告があった。

### 2. JSR2015準備状況

篠原行事幹事より、2015年1月10日（土）-12日（月）に立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催されるJSR2015の準備状況について報告があった。

### 3. 第6回・7回若手研究会報告

篠原行事幹事より、2014年8月22日（金）-23日（土）にSPRing-8キャンパスSACLA実験棟2階大会議室で開催された第6回若手研究会「コヒーレントX線が拓く構造可視化の新しい世界」および、2014年9月29日（月）-30日（火）に東京大学柏キャンパスで開催された第7回若手研究会「最先端オペランド観測で明らかになる物性科学」に関する実施報告があった。

### 4. 第6回放射光基礎講習会報告

篠原行事幹事より、2014年8月1日（金）-2日（土）に東京大学工学部6号館63講義室で開催された第6回放射光基礎講習会「初心者のための放射光入門講座」に関する実施報告があった。

### 5. 会誌編集状況

会誌編集状況について報告があった。

### 6. Cheiron School2014報告

足立庶務幹事より、2014年9月23日-10月2日にSPRing-8で開催されたCheiron School2014について報告があった。世界結晶年に関連して、今回はアフリカからも3名の参加があったとの報告があった。

### 7. AOFSSRR2014報告

足立庶務幹事より、2014年9月15日-17日に台湾で開催されたAOFSSRR2014について報告があった。

### 8. 先端光源に関する研究会について

足立庶務幹事より、先端光源に関する研究会について、分子研研究会に採択され、2014年11月21日（金）-22日（土）に岡崎コンファレンスセンターでの開催に向けて現在準備を進めているとの報告があった。

### 9. 第2回高輝度中型放射光源特別委員会について

村上会長より、2014年7月26日（土）に開催された第2回特別委員会について報告があった。

### 10. 日本学術会議公開シンポジウム

村上会長より、特別委員会の発案で2014年10月31日（金）に開催することとなった日本学術会議公開シンポジウム「中型高輝度放射光源に期待するこれからの科学技術」について報告があった。

### 11. エミッタンス表記に関する事実関係調査について

村上会長より、前回評議員会において加藤議長が一旦引き取り、これまでの経緯をまとめて評議員会に報告することとなっていた「学術機関課ヒアリング資料におけるエミッタンス値の変更」に関して、その後、加藤議長が事実関係の調査を行った結果をメールで評議員に報告し、それに対する評議員からの意見を参考にして、日本学術会議および文科省研究振興局学術機関課に対して事情説明や資料の差し替え依頼を行っているとの報告があった。

### 12. 前回評議員会議事録の確認

足立庶務幹事より、前回評議員会議事録案「16. その他」の中の「…エミッタンスに関する数値に相違があった」という部分について、ある意図を持った修正が成された旨分かる表現とすべきとの意見が評議員からあったとの報告があった。エミッタンス表記に関する事実関係調査結果とその後の対応を踏まえて議論した結果、意図的な修正ではないと判断し、「相違があった」という表現で前回評議員会議事録の最終版とすることとした。

エミッタンス表記に関する事実関係調査に関連して、出席委員より、村上会長の学会長としての立場とKEK-PF施設長としての立場を区別して考えるべきであり、村上会長自身も評議員や会員に対してこのことを周知すべきであるとの意見があった。これに対して村上会長から、今までも2つの立場を混同したことはないが、今後このような誤解を招くことがないように注意し、学会が一丸となり放射光科学の推進のため

めに取り組めるよう、最大の努力を行うとの表明があった。

### 13. 男女共同参画学協会連絡会実態調査回答個票の利用ガイドライン案

足立庶務幹事より、男女共同参画学協会連絡会から大規模アンケートの回答個票取扱いを定めるガイドライン案について審議の依頼があり、幹事会で確認の上、承認したとの報告があった。

#### 評議員会日程（予定）の確認

第105回評議員会 2015年1月10日(土)

場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス

第106回評議員会 2015年4月11日(土)

場所：未定

第107回評議員会 2015年7月11日(土)

場所：未定

#### ■会員異動

##### 第103回評議員会（2014年7月12日）で承認

###### 《正会員入会》

山下 良樹 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

大坪 嘉之 大阪大学 大学院生命機能研究科 光物性研究室

藤田 浩 JASRI 常務理事

伴 弘司 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

Alfred Q. R. Baron RIKEN SPring-8 Center & JASRI

ペ ソンチョル 東京理科大学 理工学部 建築学科

以上6名

###### 《学生会員入会》

村上 竜平 兵庫県立大学大学院工学研究科物質制御計測化学研究グループ

佐々木誓良 東京大学工学部物理工学科 雨宮研究室

菊竹 大樹 東京大学工学部物理工学科雨宮研究室

小山 拓 東京理科大学理工学部兼松研究室

以上4名

###### 《シニア会員入会》

藤井 保彦 財団法人 総合科学研究機構 (CROSS)

小山田正幸

以上2名

###### 《賛助会員入会》

株式会社テクノエーピー

以上1社1口

###### 《退会会員》

正会員10名, 学生会員5名

###### 《会員数》

会員1308名(内学生127名) 名誉会員5名 シニア会員26名

賛助会員43社(45口) 特別賛助会員10団体(11口)

#### ■会員異動

##### 第104回評議員会（2014年10月11日）で承認

###### 《正会員入会》

廣友 稔樹 公益財団法人 高輝度光科学研究センター 産業利用推進室

岸本 喜芳 VG シエンタ㈱

富澤 雅美 東芝 IT コントロールシステム株式会社

杉井 鶴代 東芝 IT コントロールシステム株式会社

吉田 雅也 東芝 IT コントロールシステム株式会社

中沢 寛光 関西学院大学理工学部

平田美由紀 九州大学 医学研究院 環境医学分野

福永 拓 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究部門

関西光科学研究所 プロジェクト推進室

狩野 賢吾 グローリーシステムクリエイティブシステムソリューション4部

平田 靖透 東京大学物性研究所 榊原研究室

山崎 悟志 古河電気工業株式会社 横浜研究所 解析技術センター

池田 裕子 京都工芸繊維大学

細野 英司 産業技術総合研究所

阿部 利徳 公益財団法人 高輝度光科学研究センター

吉田 恭平 京都大学エネルギー理工学研究所

尾崎 恭介 独立行政法人 理化学研究所 放射光科学総合研究センター 理研 RSC-リガク連携センター 検出器開発チーム

以上16名

###### 《学生会員入会》

室田 健人 東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻寺井研究室

木全 哲也 東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻寺井・鈴木研究室

北村 未歩 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻藤岡研究室

竹内 圭織 東京大学理学系研究科松田巖研究室

久保田雄也 東京大学物性研究所 松田巖研究室

加藤 宏祐 東北大学工学研究科百生研究室

高島 正宏 大阪大学 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 猿倉研究室

下村 啓 大阪大学大学院工学研究科精密科学・応用物理学専攻山内研究室

野中 洋亮 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻藤森研究室

橘 祥一 大阪大学, 基礎工学研究科, 関山研

宇佐美亮太 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 物質工学専攻 ゴム・エラストマー科学研究室

伊藤 邦朗 東京理科大学総合化学研究科 築山研究室

野田 智博 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻溝川研究室

太田 雄規 兵庫県立大学 大学院工学研究科物質系工学専攻 B4 (物質制御計測化学研究グループ)

下山 秀文 群馬大学大学院 理工学府 電子情報・数理教育プログラム 伊藤正久研

山添 康介 東京大学 新領域創成科学研究科 物質系専攻  
佐々木研究室

能島 士貴 九州大学 先端物質化学研究所 高原研究室

西山 俊幸 京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学  
専攻 物理学第一分野 不規則系物理学研究室

竹尾 陽子 東京大学工学部精密工学科三村研究室

大内 貴仁 兵庫県立大学工学部 大学院工学研究科物質系工  
学専攻 B4 (物質制御計測化学研究グループ)

渡邊 稔樹 立命館大学大学院生命科学研究科無機触媒化学研  
究室

山本紳太郎 京都大学大学院 人間・環境学研究科 相関環境  
学専攻 吉田鉄平研究室

住田 一真 大阪大学大学院理学研究科高分子科学専攻超分子  
構造解析研究室

森川 公彦 島根大学総合理工学研究科

末次 高明 東京理科大学大学院理学研究科応用物理学専攻樋  
口研究室

島津 雄一 東京理科大学 理学研究科応用物理学専攻 樋口  
研究室

加藤 諒 東京理科大学理学研究科応用物理学専攻齋藤研究  
室

岡田 陸 東京理科大学理学研究科応用物理学専攻齋藤研究  
室

福山 大輝 兵庫県立大学 大学院工学研究科物質系工学専攻  
B4 (物質制御計測化学研究グループ)

島田 佳奈 立命館大学大学院 生命科学研究科 無機触媒化  
学研究室

Chotiwan Siwaruk 立命館大学大学院 生命科学研究科

松下 龍樹 兵庫県立大学 大学院物質理学研究科 光物性学  
分野

白石龍太郎 兵庫県立大学理学部 光物性学研究室

山本 悠策 立命館大学大学院生命科学研究科無機触媒化学研  
究室

小林 大地 名古屋大学工学部物理工学科量子エネルギー工学  
コース曾田研究室

木村結花子 弘前大学大学院理工学研究科加藤研究室

以上36名

#### 《シニア会員入会》

入戸野 修 東京工業大学 工 金工

以上1名

#### 《特別賛助会員入会》

佐賀大学 シンクロトロン光応用研究センター

以上1団体1口

#### 《退会会員》

正会員17名, 学生会員2名, 賛助会員1社 (1口)

#### 《会員数》

会員1341名 (内学生110名) 名誉会員5名 シニア会員27名  
賛助会員42社 (44口) 特別賛助会員11団体 (18口)

### ● 会誌オンライン利用方法に関するご案内 ●

編集委員長 木村昭夫  
渉外幹事 濱 広幸

オンライン会誌にアクセスするには、放射光学会のトップページにある会員専用ボタンをクリックし、会員専用ページにアクセスする必要があります。

会員専用ページにアクセスするためのユーザー ID とパスワードは

User ID : jsr276

Password : Py8akh7i

です。このユーザー ID とパスワードは、次号が発行された後に失効します。

会員専用ページにある、[学会誌「放射光」のオンライン閲覧](#)をクリックして頂ければ、オンライン会誌を従来通りご覧頂くことができます。

会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また、記事の著作権は日本放射光学会にありますので、転載等のご希望に関しては、必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で、会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

ホームページに関して問題等ございましたら、濱 (hama@lms.tohoku.ac.jp) までご連絡下さい。オンライン会誌に関するご連絡は、木村 (akiok@hiroshima-u.ac.jp) までお願いします。

## ■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2014年 12/12	SPring-8 利用推進協議会 グリーンサステイナブルケミストリー研究会 (第3回) —GSCに関連した触媒材料開発の最前線—	名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 3階 ベンチャーホール	SPring-8 利用推進協議会 研究開発委員会 E-mail: suishin@spring8.or.jp	27・6
2015年 1/13-14	日本磁気学会 第200回研究会/第51回化合物新磁性材料専門研究会磁性材料の作製と評価手法～大型実験施設を用いた材料評価～	いばらき量子ビーム研究センター B101室	日本磁気学会 TEL: 03-5281-0106	27・6

### ■SPring-8 利用推進協議会

#### グリーンサステイナブルケミストリー研究会 (第3回) —GSCに関連した触媒材料開発の最前線—

主 催: SPring-8 利用推進協議会 研究開発委員会

協 賛: 日本放射光学会, 他

日 時: 2014年12月12日(金)

場 所: 名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 3階  
ベンチャーホール  
(〒464-8601 名古屋市中種区不老町 B2-4)

参加費: 無料

定 員: 70名 (定員になり次第締め切ります。)

問合せ先:

(公財)高輝度光科学研究センター  
研究調整部 SPring-8 利用推進協議会事務局  
TEL: 0791-58-0924 FAX: 0791-58-0830  
E-mail: suishin@spring8.or.jp

ホームページ:

<http://www.spring8.or.jp/ext/ja/iuss/htm/text/14file/gscheme/3rd/index.html>

### ■日本磁気学会 第200回研究会/第51回化合物新磁性材料専門研究会

#### 磁性材料の作製と評価手法～大型実験施設を用いた材料評価～

材料評価方法は、実験室ベースと大型実験施設ベースに分けられます。今回の研究会では、普段なじみの薄い大型実験施設を用いた材料評価を紹介します。例えば、大型放射光施設 SPring-8 などで行われる放射光実験、並びに、大強度陽子加速器実験施設 J-PARC 物質・生命科学実験施設 MLF などで行われている中性子実験及びミュオン実験にフォーカスしています。

研究会では、磁性材料作製の専門家から最近のトレンド及び試料評価手法として放射光・中性子・ミュオンに期待することを紹介していただきます。続いて、放射光・中性子・ミュオン実験手法について各専門家からそれぞれの実験手法でどのような結果が得られるのかを紹介していただきます。研究会には、J-PARC/MLF の見学ツアーを企画しています。研究会並びに J-PARC/MLF 見学ツアーを通じて、大型実験施設の利用に興味を持っていただけましたら幸いです。多くの方のご参加をお待ちしております。

主 催: 日本磁気学会

協 賛: 日本放射光学会, 他

日 時: 2015年1月13日(火) 13:00～1月14日(水) 12:10

場 所: いばらき量子ビーム研究センター B101室 (茨城県那珂郡東海村白方162-1)

参加費: 無料 (研究会資料予約購読者, 学生)  
2,000円 (会員, 協賛会員)  
4,000円 (非会員)

資料代: 1,000円 (会員, 協賛会員, 非会員, 学生)

事前登録: J-PARC/MLF 見学ツアーご希望の方は、下記 URL より12月12日までにご登録願います。

URL: <http://www.cross-tokai.jp/ja/research/events/2015/v15001>

J-PARC 宿泊施設 (1泊2,500円) の予約も上記サイトよりご案内しています。

なお、見学ツアー不参加の方は当日受付可能です。

問合せ先: 日本磁気学会事務局

TEL: 03-5281-0106

URL: [http://www.magnetics.jp/event/research/semihist/topical\\_200/](http://www.magnetics.jp/event/research/semihist/topical_200/)

オーガナイザ: 上原政智 (横国大), 大石一城 (CROSS), 小副真人 (SPring-8)